

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700527		
法人名	医療法人 吉誠会		
事業所名	グループホーム菜の花	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県都城市高城町穂満坊496-3		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果市町村受理日	平成26年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kanistrue&ijyosyoCd=4571700527-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が楽しく過ごせるように、一人ひとりに声かけし、話をする場を設けて、ゆとりあるケアに取り組んでいる。季節感を感じてもらえるように、施設での野菜作りや花見、祭りへの参加、誕生日会等季節に応じた行事を計画し、入居者や家族に安心して頂けるよう生活支援している。併設の老健施設の入居者との交流の機会もあり、親戚や昔からの友人との面会ができ、楽しい時間を過ごすことができるよう支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価で、次のステップに期待したい内容であげられた点を改善に向けて努力している。利用者の家族のほとんどが遠方に住んでいるため、更なる利用者本位を目指し、介護がなされている。利用者の表情の変化に注意を向け、内面を引き出す技量が増してきている。それにより、職員の利用者への言葉かけの現状が把握でき、改善につながった例もある。職員は、やりがいのある仕事として取り組んでおり、表情も明るく、より良い介護を目指し、みずから進んで物事に取り組み、学ぶ意欲がある。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本とした支援に取り組んでいる。 職員間で理念に沿った支援方法を話し合う場を設けている。		「慣れ親しんだ地域の中で和やかにいたわりの暮らしを目指す」を理念に、実践につなげる支援を行っている。他の介護理念も分かりやすい文章で、実践に結び付けやすくなっており、職員は心がけて介護をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地区の祭りや清掃、その他行事への参加。事業所への行事に声かけし、来て頂いて交流につなげている。自治会のリサイクル活動に参加し、苑でのリサイクル品を回収所へ持って行っている。		自治会に加入しており、職員が、清掃など地域の活動に参加している。地区の方がホームに来られるなど、地域とのつながりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者クラブの施設見学受け入れをし、認知症の方の対応方法の説明を行ったり、施設紹介も行い、地域の方の生活に活かしていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに行われており、地域の方の参加もある。 運営についての報告もなされている。		2号館のリビングで開催しており、ホームの状態を観察できるようになっている。意見や要望が少なく、内容が課題となっている。	議題を事前に通知する際に工夫をしたり、委員の編成を再考するなど、運営に役立つ運営推進会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点などがあつた場合は、その都度連絡し相談にのってもらい、アドバイスをいただいたりしている。		担当者とのメールでのやり取りや支所、市役所の担当課に出向き相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間を決めて開放している。 朝の掃除のとき(9:00~17:00)から夕方までは換気目的や入居者の散歩の出入りのため、玄関や居室の施錠をしないケアをしている。		午前中は玄関のドアを開放し、心地よい涼風が入ってくるようにし、午後は熱風が入るので閉めているが、施錠はしないようにしている。拘束が必要な利用者が一人おり、状況や時間などを見て、ミトンなどを外している。家族の同意は得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の行動や動きに目を配り、観察。 センサーやマットレスを用いて、転倒・転落防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御利用者の方々には利用される方はいない。 パンフレットなどは用意されている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居が必要な本人の家族に対し、十分に説明し、同意を得、納得した上で署名・捺印をいただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、運営推進会議や面会に來られたときに御家族に意見を頂き、それらを職員間で意見交換し、運営に反映させている。	利用者の要望を職員が聞き、職員間で話し合い、応える支援がなされている。家族の意見や要望を聞き出す努力も続けている。時には職員の側から意見を提案し、同意をもらうことがある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回業務会議を開き、意見や提案を聞いている。	利用者への処遇に関し、職員から意見が挙がったので、管理者は職員にアンケートを取り、参考にして話し合い、改善できた事例がある。職員の勤務体制も話し合ったことがあり、現状維持がふさわしいとの結論になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1ヶ月に1回業務会議を行い、意見や提案を聞いている。 キャリアパスの設備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で研修があるときには、職員に受ける機会をもち、働きながら職員同士でケアについて意見交換をもちながらすすめている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会研修があるときには参加してもらい、交流・意見交換の場を通じてサービス向上に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃からコミュニケーションを図り、本人さんの思いを聞き、安心を確保することに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回カンファレンスの席に御家族に要望などをお聞きし、面会に来られたときにもコミュニケーションづくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聴き、本人の状態を観察し、何が必要かをスタッフと相談しながら、支援に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、台所の仕事など、出来る範囲で協力をもらい、生活が単調にならないよう工夫する。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日常生活状態や変化が見られたことなどの報告を行い、家族の方に情報を提供する。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた際には、苑内で談話して頂いたり、近所への散歩に出かけることができるようにしている。	友人の来訪がある時は、お茶やお茶菓子を出してもなしている。家族、兄弟、自分の住んでいた家を訪問する支援もなされている。公園や神社に出掛けることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や行事の場を設け、利用者同士の関わり合いをもてるようにしている。日々の生活に笑い声が聞こえるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際に、これからのサービス利用について助言すると共に、不安に思うことの話聞き、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人さんに、苑での過ごし方の希望・意向をお聞きし、暮らしや憩いの場の提供を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの過ごし方を把握している。よく話しかけ、嗜好などを聞き出している。表情の変化に注意を払い、声掛けをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や御本人さんとのコミュニケーションの中から、生活歴やなじみのことをお聞きし、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	苑での日常の過ごし方を観察、コミュニケーションから入居者御本人の現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月末計画に対しての評価を個別記録より確認し、担当者記入分と照らし合わせ、モニタリング後計画している。	1か月ごとのモニタリング、3か月の見直しと計画書の作成が行われている。状態の変化に応じた見直しと計画書の作成も行われている。遠方の家族には、前もって電話で要望を聞き計画書に生かすようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御本人さんの様子やケアに対して、個別記録や申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	キーパーソンの環境変化や依頼事など、必要な内容はスタッフ間で情報共有し、計画上へ反映できるようにしている。			

宮崎県都城市高城町 グループホーム菜の花(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の友人・知人が時々訪問して会話されたり、近隣の方の訪問があり、一緒に会話していただく。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医で受診・診察をし、適切な医療が受けられるように支援している。クリニックにない診療科については、ドクターより紹介して頂き受診をしている。	利用者全員が、法人のクリニックへ受診しており、職員同伴でカルテを持参し、状態を医師に伝えている。協力医などの他科受診は、家族同伴が無理な場合は、職員が同行している。家族には、口頭で利用者の状況を伝え、受診後も家族から情報を得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者との関わりの中でとらえた情報や気づきを看護職に伝え、相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、職員も病室に顔を見に行くようにしている。利用者さんの状態について、病院側と情報交換や相談に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より現病状を説明して頂き、治療方針を共有し、支援に取り組んでいる。	看取りの指針が文書化されている。入居時に話し合い、看取りが必要な場合に、同意書を取るようになってきている。現在までホームでの看取りはなく、法人内の病院での看取りとなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の場で、応急手当や初期対応について看護師から指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、災害訓練をし、利用者が避難できる方法を全職員が身につけると共に、連絡網をまわし、地域との協力体制を築いている。	ホーム独自の災害対策マニュアルが作成されている。夜間想定訓練も行われている。地震想定は行ったことはない。消防団との連絡体制はできているが、消防署が参加したのは2年以上前である。	消防署の指導、地震想定訓練、近隣の住民の協力など、優先順位を決めて行っていくことを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対しての声かけを、じいちゃん・ばあちゃんとの言葉は使用しないようにしている。 排泄のときなど、ドアを閉めて、のぞかれないようプライバシーに気を付けている。		利用者の尊厳を意識した言葉かけを心がけている。慣れ親しんだ名前を呼ぶことにより、利用者の思いを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の時間を利用して、色塗りやレク問題を強制するのではなく、本人の好みやその時の状況によって、選ぶ物も本人希望に合わせている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に戻られ横になって寝られる方は寝てもらい、テレビを観られる方はテレビを観てもらい、その方のペースに沿って、体を動かしたりして利用者の方を優先に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が長くなったら散髪し、男性の髭が伸びたら髭剃りを渡し、自分で剃っていただき、できない部分はスタッフが行う。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が昼食を一緒に食べ、好みの物や味付けなどに関して話をして、テーブル拭きをしていただいている。		同法人の施設厨房で料理された食事を職員も同じテーブルにつき、共に食べている。利用者の好きな物の調査をし、厨房に伝え、反映させることもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食べる量、食べる時間、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの習慣に応じた支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯がない人はうがい、義歯の人ははずし、歯ブラシで汚れをとる。週に1～2回ポリデントで洗浄する。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、日中は排泄パターンや仕草などを察知し、自力に向けた支援を行っている。		排泄つパターンに応じて支援しているが、表情や仕草で職員が察知した対応も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物にはさつまいも、ご飯やバナナを使い、便秘予防・対応に取り組んでいる。常に水分補給を心がけている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回は入浴日を設けている。季節に合わせてゆず風呂や花風呂にし、入浴を楽しめるようにしている。		利用者は半数に分けての入浴であるが、毎日沸かしている希望があれば、毎日可能な状態である。利用者の状態に応じては、次の日に入浴支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間にとられず、利用者のその時の状況に応じて、お茶やお菓子等を食べていただいたり、会話などをして安心して眠れるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬を行っている。病状の変化については、看護師に連絡を取り、報告し、ドクターからの指示を仰いでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、おしぼりたたみ、新聞たたみ、カレンダー色塗り、おやつ作りの手伝い等、役割・楽しみなことで気分転換を図っていただいている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに外出の計画をし、普段行けないような場所に外出できるように機会を設けている。家族の協力をもらい、墓参りや自宅への外出支援もある。		爽やかな早朝時や曇り日には、近所の散歩に出掛けている。利用者がなじんでいた公の場所への外出も計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所で管理している。 入居者一人ひとりに必要なものがあれば、預っているお金から職員が買い物している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話することはないが、家族からの電話には、本人が話せるようにしている。電話の訴えのあった際には、希望の所にかけ、話をしてもらっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、電気の明るさなどを調節したり、温度調節などを行っている。ホールには、花などを飾り、居心地よく過ごせるようにしている。		テーブルには、季節の花が飾られている。長さの違うソファーが色々な位置に置かれ、脚あげ体操を行うときに使用したり、利用者が思い思いの場所に憩う場所となっている。リビングの場所によって冷房の温度差があるために、職員が調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、テーブルの自席以外にソファーがいくつもあり、1人になったり、一緒に座り話をしたり、テレビを観たりできるよう、居場所の工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みのもの(人形が入った人形ケース)やTV・タンスなどを置いて、居心地よく過ごせるようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、手摺りが設置されている。トイレの目印として入口に花をかざり、自立に向けての支援をしている。			